

# 日 報

令和？年？月？日  
記載者：？？？

問題となった当社社員（以下、被害者とする）GIFT 接種から 30 日以上が経過した。贈守は変わらず GIFT の特効薬開発に勤しんでいる。依然と比べて各段にモチベーションが上がったことは、私個人としても会社としても、ポジティブに捉える事案と考える。

- ・メイン開発者である静水上が、辞職したこと
- ・GIFT のデータがクラッシュしたこと
- ・贈守が被害者の解毒役となっていること
- ・被害者が事を大きくするつもりがないこと

本問題が訴訟などの大事とならなかったのは、被害者と贈守の知り合いだったこと、または恋仲に近い状態だったからである。この状況下において、会社としての過度な対応や処罰するのは得策ではない。

なお、贈守は被害者と恋仲となったようで、彼のモチベーションアップの要因となっている。今後、彼が GIFT の特効薬を開発できるかどうか、その恋人との仲にかかっているように思える。二人が結婚すれば被害者から、会社の不手際による意識を逸らすことも可能である。

贈守は決まったことは確実にこなすものの、創造性に欠ける。また、対人コミュニケーションを苦手としており、自分の意思を伝えることが不得意である。

しかし、入社したばかりの社員などには、その対応・性格が受けており、教育係および社内のクレーム第一受付としても、適任である。

ここからは個人的な主観となる。彼が 31 歳という年齢であること、および言われのない社内イジメに苦しんでいた事実から、彼自身のモチベーション維持および、被害者との結婚意識のためにも、近日中に贈守を昇進させる。